

# 弥生・古墳時代の遺跡

## ① <sup>しもむらかも</sup>下村加茂遺跡 弥生時代前期（約 2,500 年前）

下村加茂神社の北にある弥生時代前期の遺跡です。旧鍛冶川の跡と考えられる谷から多量の木製品が出土しました。

出土した木製品には、<sup>くわ</sup>鋏・<sup>たてぎね</sup>鋤柄・<sup>かい</sup>堅杵などの農具、<sup>とりがた</sup>櫂・<sup>けんがた</sup>タモ網などの漁労具、鳥形・剣形などの祭祀具のほか、建築部材も含まれていました。木製農具は、県内で最古級と考えられます。

下村パークゴルフ場のクラブハウス内にある下村加茂遺跡展示室では、発掘調査の成果や木製品を中心とした出土品を展示公開しています。



弥生時代の川跡

## ② <sup>つくりみち</sup>作道遺跡 弥生時代中期（約 2,100 前）

国道 8 号バイパスの北に広がる弥生時代中期の集落遺跡です。

平成 16・17 年（2004・2005）の発掘調査では、弥生土器や石器など多くの遺物が出土しました。なかには縄文を施した土器や、丁寧に研磨された緑色の磨製石斧など長野県北部からの搬入品が含まれており、2,000 年前の富山と信州の人々との繋がりを物語ってくれます。



弥生土器

## ③ <sup>たかしま</sup>高島A遺跡 弥生時代中期（約 2,100 年前）～古墳時代前期（約 1,700 年前）

昭和 43 年（1968）に当時の新湊南部中学校の生徒によって発見された弥生時代中期から古墳時代前期の集落遺跡です。

弥生時代中期の住居跡や、周囲を溝で方形に区画した「<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>方形周溝墓」と呼ばれる墓が見つかっており、多量の弥生土器や石製品が出土しています。



住居跡



二枚貝のような石製品

弥生時代後期の川跡から出土した<sup>じゃもんがん</sup>蛇紋岩製の石製品は、三角形の片面を繰り抜いた二枚貝のような形状で、全国的にも類例がありません。

#### ④ <sup>こばやし</sup>小林遺跡 弥生時代中期（約 2,100 年前）～古墳時代前期（約 1,700 年前）

大島絵本館の西側に広がる集落遺跡です。弥生時代中期から古墳時代前期の土器や勾玉・石鏃などが出土しました。

弥生土器には、作道遺跡・高島A遺跡で見つかった長野県北部産の土器を模して地元で作られたものが含まれています。

この遺跡は、作道遺跡や高島A遺跡の 2.8 km 上流に位置しており、神楽川水系の河川を利用した交易・交流の様子を知ることができます。



弥生土器

#### ⑤ <sup>こすぎいせりょう</sup>小杉伊勢領遺跡 【射水市指定史跡】

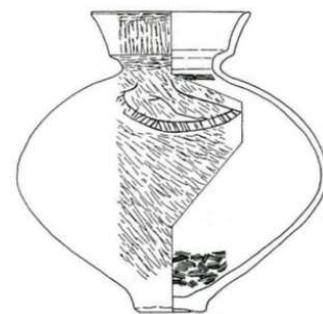
弥生時代後期（約 1,800 年前）～古墳時代初期（約 1,700 年前）

あいの風とやま鉄道小杉駅の南方約 400 m に位置する集落遺跡です。

平成 3 年（1991）の調査で見つかった大溝からは、弥生時代後期の土器が多量に出土しました。土器は、壺・甕・高坏・器台など、様々な形のものが 100 個体あまりまとまっており、弥生人が描いた「龍」と考えられる線刻絵画が施された壺も含まれていました。



絵画土器（弥生時代後期）



#### ⑥ <sup>ぬのめさわかた</sup>布目沢北遺跡 弥生時代後期（約 1,800 年前）

庄川と和田川に挟まれた標高 9 m の平野に位置しています。弥生時代後期の方形周溝墓 19 基が見つかりました。

方形周溝墓は、墓同士が溝を共有する形で隣接して作られており、順次構築されていったものとみられます。一辺が 6 m 程度のものから 10m を超えるものまであり、規模の違いが被葬者の身分差などを示していると考えられます。赤彩された台付装飾壺や器台など、墓に供えたと考えられる弥生土器が出土しました。



方形周溝墓

#### ⑦ <sup>ほんごうはただいち</sup>本江畑田 I 遺跡 弥生時代後期（約 1,800 年前）～古墳時代前期（約 1,700 年前）

北陸新幹線から南方約 100m の和田川右岸に位置する集落遺跡です。これまでの調査で、弥生時代後期の住居跡 3 棟、古墳時代前期の住居跡 2 棟などが見つっています。

多くの遺構から、装飾用玉類の未製品・原石・剥片（原石を割った際に出る破片）が出土していることから、集落内で玉作りが行われていたと考えられます。

付近には、かつて墳丘のような盛り上がりがあったと伝えられており、墓への副葬品として玉作りが行われていた可能性もあります。



住居跡



玉未成品と原石・剥片

⑧ <sup>ふたくちあぶらめん</sup> 二口油免遺跡 **古墳時代前期（約 1,700 年前）**

大門中学校の南方約 400m に位置する集落遺跡です。幅 1.5m、深さ 0.7~1.2m の溝を方形に廻らせた一辺約 19m の古墳（方墳）の跡が見つかりました。溝の中からは多量の土器が出土しており、赤彩された土器が多く含まれていました。これらの土器は古墳の儀式に用いられた特別なものと考えられます。

墳丘は昭和 10 年（1935）の耕地整理によって失われましたが、その際にも赤彩された土器などが多く出土したと伝えられています。

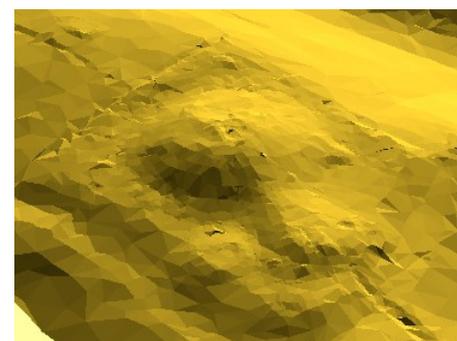


古墳（方墳）の跡

⑨ <sup>こぶいち</sup> 五歩一古墳 **古墳時代前期（約 1,700 年前）**

下条川左岸の丘陵北端部に位置しています。昭和 51 年（1976）に発見され、当時は前方後方墳と考えられていましたが、その後の測量調査によって、全長 43.3m の前方後円墳であることが確認されました。古墳は、不整形ながらバチ状に広がる前方部を北へ向け、周囲にテラス状の平坦面が廻っています。古墳の形状から、築造時期は古墳時代前期と考えられますが、詳細はわかりません。

下条川対岸の丘陵上には、同じく前方後円墳の変電所西古墳があり、ともに下条川流域を支配した首長墓と考えられます。



五歩一古墳と周辺地形（南から）

⑩ <sup>おおつか</sup> 大塚古墳【富山県指定史跡】 **古墳時代中期（約 1,600 年前）**

射水丘陵西側の段丘上に築かれた 5 世紀頃の古墳です。

高さ約 6 m、直径約 36.5m の円墳であり、斜面に造られているため実際の規模よりも大きく見えます。

かつて周辺には 5 基の古墳があったと伝えられ、射水地域でも有力な古代豪族が存在していたことを示しています。

なお、地元では、大塚には塚の主がおり、村人が行事などで膳や椀のほか家財が必要になったとき、その数を頼むと貸してくれたという伝説が残されています。



大塚古墳

⑪ <sup>かこいやま</sup> 罫山遺跡【富山県指定史跡】 **弥生時代後期（約 1,800 年前）**

射水丘陵の北西端部に位置します。昭和 44 年（1969）の発掘調査で弥生時代後期の方形周溝墓 4 基、土壙墓 4 基が見つかりました。



罫山遺跡

方形周溝墓は、最大で一辺 17m の規模があり、溝内からは墓に供

えられたと考えられる赤彩された弥生土器が出土しました。また、土壙墓からは、副葬品としてヒスイ製勾玉・管玉・鉄鏃（鉄の矢じり）が出土しました。



方形周溝墓

⑫ <sup>なかやまみなみ</sup>中山南遺跡【富山県指定史跡】 古墳時代前期（約 1,700 年前）

射水丘陵の北端部付近に位置する集落遺跡です。昭和 39～43 年（1964～68）に行われた発掘調査で、竪穴住居跡 9 棟が見つかりました。うち、丘陵頂部にある最大規模の住居跡は 14×10m の楕円形であり、集落内で特殊な役割のあった建物と考えられています。

また、砥石や碧玉質の原石が出土した住居跡もあり、勾玉や管玉などの玉作りが行なわれたと考えられます。その他、赤彩された脚付の壺や蓋形土器などの土器が多く出土しました。

現在、遺跡は史跡中山公園として利用されています。



中山南遺跡

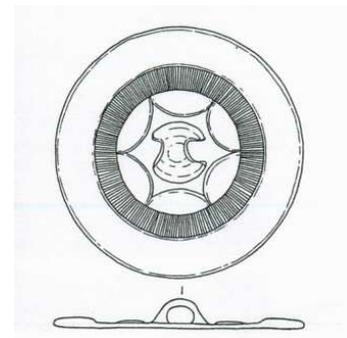
⑬ <sup>うの</sup>上野遺跡【射水市指定史跡】 古墳時代前期（約 1,700 年前）

北陸自動車道小杉 I.C の場所に位置する集落遺跡です。昭和 30 年（1955）頃から、縄文土器が出土する場所として知られていました。

昭和 45～47（1970～72）に行われた発掘調査では、旧石器時代から江戸時代までの長期間にわたる遺構・遺物が見つかりました。なかでも、弥生時代末から古墳時代前

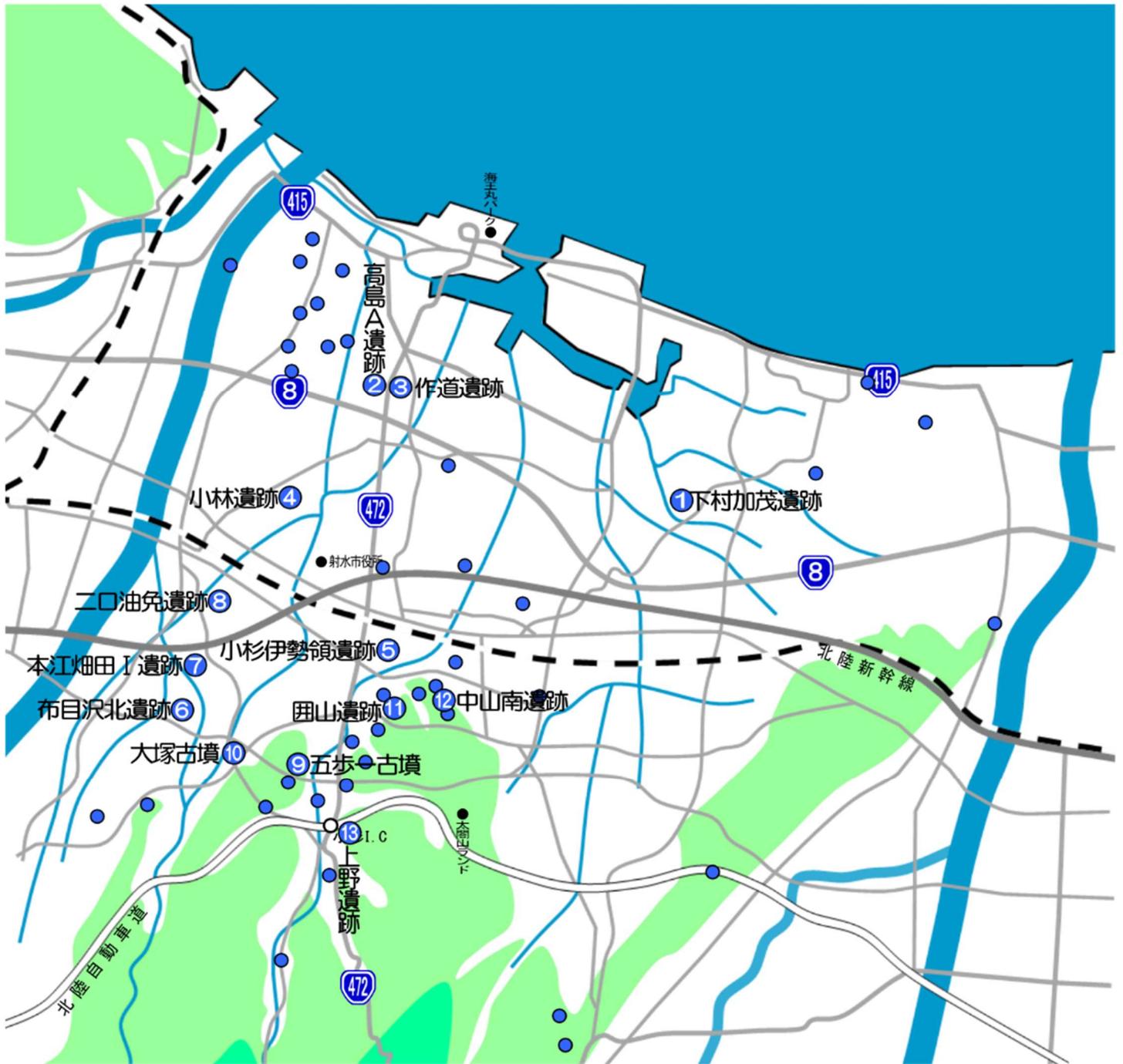


台地上の竪穴住居跡



鏡の復元図

期が当遺跡のピークで、竪穴住居跡や土坑が多く見つかっています。住居跡からは、玉類の未成品や内行花文鏡と呼ばれる直径 7.2 cm の小型の鏡も出土しました。



# 弥生・古墳時代の主な遺跡

## 【お問い合わせ先】

射水市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 文化財係

TEL : 0766-51-6637 FAX : 0766-51-6663

E-mail : bunkazai@city.imizu.lg.jp

射水市埋蔵文化財センター

TEL・FAX : 0766-55-2238